



【報告】寄附のゼミナール in あいち 2020

※寄附のゼミナールとは

NPO の活動内容や成果を PR することで、社会課題に取り組む非営利活動団体を理解し、共感し、支援をしたくなる寄附教育。プレゼンテーションを聞いた生徒の投票により選定される。

1 テーマ 「いのち」は自分だけのものじゃない

2 ねらい

「中学生と赤ちゃんのふれあい交流会」の目的や内容を紹介することで、生徒たちに「いのちの大切さ」を考える機会を提供する。

3 概要

- (1) 日時・場所 12月16日(水) 午後1時～3時 春日中学校体育館
- (2) 対象者 春日中学校2年生 83名
- (3) 説明者 清須市家庭教育支援チーム チーム MOMO

4 内容

「中学生と赤ちゃんのふれあい交流会」を通して

(1) なぜ「いのちの大切さ」を伝えるのかという理由。

- ・少子化・格家族化の増加。
- ・「命」を実感する体験の減少。
- ・「命」を軽視しやすい環境。
- ・「命」の大切さを学ぶ機会が少ない。

(2) 「命」について、中学3年生のアンケート(令和2年10月 169名)。

ア. あなたは、命について考えたことがありますか？

- ・はい 83% いいえ 17%

イ. あなたは、命についてどのように考えていますか？(一部)

- ・命はとても弱いものであると思う。だからこそたくさんの経験をして、たくさんの愛情をうけ、強くしていくのだと思う。
- ・死んだら無くなってしまい、二度と得られないもの。大切であたたかいもの。言葉で言い表せないくらいおおきくて、大事にしないといけなくて、「ありがとう」とどれだけ言っても足りないもの。
- ・深くは考えたことないのでわかりませんが、親が育ててくれた大切な命なので、自分の判断で勝手な行動をしてはいけないと考えています。

(3) 「中学生と赤ちゃんのふれあい交流会」の事業とは

ア. ねらい

- ・中学生が赤ちゃんやその保護者と、ふれあい交流する中で「いのちの大切さ」を学ぶ。

イ. 内容

- ・保健師さんのおはなし
- ・乳児のお母さんのおはなし
- ・赤ちゃんとのふれあい
- ・乳児のお母さんと中学生の交流

ウ. 参加者の感想（一部）

- ・初めて赤ちゃんの心音を聞いて、すごく感動しました。小さいながらも心臓の音が聞こえて一生懸命生きているんだなと思いました。音は小さく心拍数がとても速かったです。
- ・一つの命には様々な思いが込められていることを知りました。改めて自分のありがたさ、親への感謝の気持ちを感じました。
- ・自分が赤ちゃんだった時も、今日聞いた話のようにお母さんが大変だったことを知りました。今まで育ててくれた分、今生きているんだと感じました。

（４）「命」についてチーム MOMO から伝えたいこと

- ・「命」は自分だけのものではない！
- ・あなたが、「いのちの大切さ」を伝える発信者でいてほしい！
- ・「中学生と赤ちゃんのふれあい交流会」の活動を通して、「いのちの大切さ」を伝えていきたい！

5 投票をしてくれた生徒さんの声（一部）

- ・命は、とても大切で、自分一人だけのものでは無いということが分かって、「いのちの大切さ」を学べるというところがとてもいいと思った。それと、実際に赤ちゃんとのふれあい体験が出来るというところも良いと思った。
- ・人の命とは人生でひとつしかないものだし、両親が育ててくれたかけがえのない命だからです。他にも自分の命や他人の命を知ること、いじめから他人を守ることができるし、命の大切さを知って、命を粗末にしないようにどう生きていくかなど、自分の命についてより深く考えることができるから。
- ・今、コロナウイルスや誹謗中傷などで自殺してしまったり、沢山の人が亡くなっています。そんな中で、命の大切さ、尊さ、まわりの人に大切にされているっていうことを伝えて、少しでも多くの人をすくえたらいいなと思ったからです。
- ・自分の命について考えたり、命の大切さを学んだり、今まで考えなかったことを考えるきっかけになったし、育ててくれた人もすべてふくめ、命は自分だけのものではないということが、とても正しいと思ったからです。